

2018年に報告した美唄山の植物相（林業試験場研究報告 57）では、ネコヤナギがリストにありましたが、拙著「美唄山の植物ハンディ図鑑」では除かれています。この間に何があったのか・・・。

根拠とした標本は下に示したものです。丸みのある葉で6月下旬という時期にははっきりとした托葉があるので、ネコヤナギであろうと考えました。ただし、葉は表に長軟毛が散生し、裏に縮毛が密生する点は、両面に絹毛があるネコヤナギとは異なり、側脈が6-9対である点もバッコヤナギ様でした。一方、葉柄が3-4mmと短く、明らかな鋸歯縁で、若枝に軟毛が密生する点はネコヤナギに似ています。（バッコヤナギも希に鋸歯縁の葉をつけます。）裸材の隆起条は枝先でもあり、はっきりしません。

また、葉の側脈は中央部から先では弓曲しますが、曲がり方が弱い点は両者の中間的（後述フリソデヤナギではネコヤナギ様。）という疑問がありました。何気なく取った標本1点のみで、場所も特定できず再調査を試みるも発見できず検証はできませんでした。

空知地方ではネコヤナギの記録がなく、そうであればちょっとした発見だったのですがどうも納得がいきませんでした。いろいろと迷いバッコヤナギとの雑種であるフリソデヤナギも疑ったのですが、情報が乏しく決め手がないとあきらめかけていた時、本誌書評にもあるヤナギハンドブックに出会いました。この本は雑種も含めて懇切丁寧に解説しているので大変参考になりました。雑種の形質は必ずしも安定していないので、決定！とまではいかないのですが、かなり近いものだとわかりました。それでも側脈の形態などは一致しないので、確信は持てないのですが、今のところほかに該当するものがないのでフリソデヤナギということ仮同定しました。

問題は、雑種だとして、片親のバッコヤナギはいくらでもあります。ネコヤナギは近くにあるのか？ということです。タネは風に乗ってかなり飛ぶでしょうが、それでも限度はあると思います。虫媒花なので、両親はそれなりに近くにあって思われます。この流域に果たしてネコヤナギはあるのか。見つけやすいのは花期だと思いますが、春先は林道上の雪が遅くまで残ることもあり、真相はなかなか掴めそうにもありません。

(新田 紀敏)



図 1 謎のヤナギ 2016.6.23 新田採集 SAPS 収蔵